

序論)

みなさん、ペンテコステおめでとうございます。今年は日高、富川合同でこのペンテコステをお祝いできることを感謝いたします。

さて、みなさん。なぜ、わたしたちはペンテコステをお祝いするのでしょうか？約 2020 年も前の出来事を教会が毎年、毎年お祝いしているのはなぜなのでしょう。今日は、あの聖霊降臨の出来事がどのような意味がある出来事で、私達にとって何がそんなに素晴らしいのかということ、聖書から教えられていきたいと思えます。

背景)

さて、今日の箇所は使徒パウロが、旧約律法を神様から受け取って人々に伝えたモーセと、聖霊を【主】から受け取って福音を人々に伝えるようになったキリスト者の違いを教えている箇所です。

聖霊を受けることは福音伝道の資格をもらう事)

みなさん、私達教会が、あのペンテコステの時に聖霊を受け取ったということは、神様からキリストによって与えられた新しい契約、「【主】イエスキリストを信じれば救われるという」この新しい契約を人々に伝える資格を与えられた。ということです。

つまり、聖霊降臨は、聖霊に従うことで福音伝道をする事ができるという資格が与えられた。ということなのです。だから、イエス様を信じて、聖霊が与えられた人は、牧師や伝道師出なかったとしても人々に福音を述べ伝えていく務めが与えられているし、実際、あのペンテコステの時に聖霊をうけた弟子たちは、閉じこもっていた家の中から外に出て、イエスキリストを伝え初めたのです。

今日の箇所の 6 節にかかっている御言葉はまさにそのことを示しています。

3:6 神は私たちに、新しい契約に仕える者となる資格を下さいました。文字に仕える者ではなく、御霊に仕える者となる資格です。文字は殺し、御霊は生かすからです。

御霊に仕えることは栄光に溢れたことである)

みなさんはこの福音伝道という務めに対してどのようなイメージがあるでしょう

か。罪が赦されて救われる。それだけでいいのに、なんで態々自分が福音を伝えなければいけないのか？ そのような思いを持つ人がもしかしたらいるかも知れません。でも、聖書は、私達に与えられたこの務め。聖霊に仕え、新しい契約である福音を伝えるというこの務めは、モーセに与えられた栄光よりも、もっと神様の栄光に溢れたものなのだ。ということ私達に教えています。7節から11節の部分を読んでみましょう。

3:7 石の上に刻まれた文字による、死に仕える務めさえ栄光を帯びたものであり、イスラエルの子らはモーセの顔にあった消え去る栄光のために、モーセの顔を見つめることができないほどでした。そうであれば、

3:8 御霊に仕える務めは、もっと栄光を帯びたものとならないでしょうか。

3:9 罪に定める務めに栄光があるのなら、義とする務めは、なおいっそう栄光に満ちあふれます。

3:10 実にこの点において、かつては栄光を受けたものが、それよりさらにすぐれた栄光のゆえに、栄光のないものになっているのです。

3:11 消え去るべきものが栄光の中にあったのなら、永続するものは、なおのこと栄光に包まれているはずです。

文章で理解しようとするとうっかりにくいかもしれませんが。

パウロはここで律法を伝えたモーセに与えられた律法と、私達に与えられた聖霊の違いを教えています。表にするとこんな感じです。

	モーセ(律法)	キリスト者(御霊)
仕えるべき対象	石に刻まれた文字	愛の神である聖霊
結果	死ぬ定めと罪を示す	キリストによって義とする
栄光の持続性	一時的	永遠

わかるでしょうか。

モーセに与えられた律法というのは、人々を石に刻まれた文字に従わせるようにし、結果的にはこの律法によって自分は死ななければいけない。自分には罪がある

ということ突きつけ、そして、この律法を伝えるモーセに与えられていた栄光というのは一時的なものだったのです。

だから、みなさん、出エジプト記のことを思い出してほしいんですけども、モーセがシナイ山で神様から律法を与えられたとき、彼は神様と向き合うことができたので、山から降りてイスラエルの民たちのところにいったモーセの顔は、神様の栄光で満ち溢れていたのです。だから、あまりにそこに神様の栄光があるから、人々は恐れてしまい、モーセの顔を見ることができないほどでした。

律法というのは、この表にあるように石に従わせ、死と罪を人々に示し、一時的な栄光を与えるものなんですけども、でも、その律法ですら、人々が恐れるぐらい、モーセを神様の栄光に包んだのです。

対して、私たちに与えられた聖霊はどのようなものでしょうか。この聖霊は、私達を愛の神である聖霊さまご自身に仕えさせてくださいます。そして、この聖霊に仕えた結果どうなるかという、人々に罪を示すのではなくって、神様の赦しによって義と認められるという恵みを与え、そして、このお方によって与えられる神様の栄光というのは、永遠に続くのです。

だから、パウロはいうのですね。

石に従わせ、死と罪を示し、一時的な栄光を与える律法ですら、人々を恐れさせるぐらいの神様の栄光を与えたのなら、ペンテコステの時に教会に与えられた聖霊は、比べるできないようなもっと素晴らしい神様の栄光を、永遠に私達に与えてくれるのだ。 と。

みなさん、私達に聖霊が与えられたということは、モーセよりももっと素晴らしい神様の栄光が与えられ、私達の周りの人たち、罪の中で様々な苦しみや悲しみに悶えている人たちに神様の義を届ける。そのような資格が与えられたということなのです。

だから、パウロは、自分に与えられた栄光の素晴らしさに希望を於いて、私達は大胆に、福音に仕え、聖霊に仕えることができるのだ。 ッと言っています。12節を読んでみましょう。

3:12 このような望みを抱いているので、私たちはきわめて大胆にふるまいます。

みなさんが本当に聖霊により頼み、聖霊によって大きな栄光を与えられているこ

の望みを確信しているのならば、自分がクリスチャンであることを隠して、教会と家の中で祈るような信仰生活をするのではなくって、大胆に自分はイエス様を信じていますと告白しながら、イエス様のことを伝えることができるはずなのです。なぜならば、聖霊様はそのための栄光をみなさんにくださるからです。

律法と御霊のもう一つの違い)

さて、これまでは、律法と御霊が与える栄光のち外についてお話しましたが、今日のみことばはもう一つ、律法と御霊には大きな違いがあることを教えています。

それはなにかというと、律法は覆いをかけたままにするものであるのに対して、御霊は、私達の上にあった覆いを取り除いて、自由を与え、さらなる栄光へと導いてくださる。という違いです。

1) 律法には覆いがかかっている

まずは 13-15 節を読みましょう。

3:13 モーセのようなことはしません。彼は、消え去るものの最後をイスラエルの子らに見せないように、自分の顔に覆いを掛けました。

3:14 しかし、イスラエルの子らの理解は鈍くなりました。今日に至るまで、古い契約が朗読されるときには、同じ覆いが掛けられたままで、取りのけられていません。それはキリストによって取り除かれるものだからです。

3:15 確かに今日まで、モーセの書が朗読されるときはいつでも、彼らの心には覆いが掛かっています。

みなさん、先程私は、モーセは律法を受け取ることによって、神様の栄光で輝いて、イスラエルの人たちがモーセを見ることができなほど輝いていた。ということを行いました。だから、モーセは顔に覆いをかけたのです。出エジプト記にはそのように言っています。でも、モーセが顔に覆いをかけたのはそれだけではないのだよ。と今日の箇所パウロは言っています。

なんでモーセは顔の覆いをかけたのか。それは神様の栄光に輝いた自分の顔の輝きが失われていくということを隠すためだったのです。さっきも確認しましたが、律法によって与えられる栄光というのはいつまでも続かないのです。神様と会い続けなければ、いずれは失ってしまうそうゆう物です。だから、モーセは自分の顔の輝きがなくなる姿を隠す。顔の覆いをつけなければいけませんでした。

まあ、恥ずかしかったんでしょうね。最初は神様の栄光に輝いていたのに、だん

だんその輝きがなくなる。だから隠したのです。

そして、この覆いというのはモーセだけではなくって、律法をいつも朗読していたイスラエルの心にも覆いがかかっていたとパウロは言っています。実際、律法、律法とっていたイスラエル人がいつも神様に従って、神様の栄光を表せていたかということ、栄光を表すことができなくなっていました。旧約聖書をみると、彼らはしょっちゅう神様を裏切り、神様から離れて言っている姿が書かれています。なんで彼らがそのようになってしまったかということ、律法は、いつも神様の栄光に輝きつづけることができないものであり、結果として、律法に頼っている民たちは、不信仰という覆いを心の中にかぶせてしまうからです。

だから、イスラエル人たちの多くは【主】イエスキリストのことを受け入れる事ができなかったのです。

2) 御霊は覆いをとりさる

対して、聖霊さまはどうでしょうか。16-17節をまず読んでみましょう。

3:16 しかし、人が主に立ち返るなら、いつでもその覆いは除かれます。

3:17 主は御霊です。そして、主の御霊がおられるところには自由があります。

聖霊が降る前、律法の支配の中にあるときには、不信仰という覆いが人のところをおおっていますけど、御霊という【主】に立ち返るとき、この聖霊さまが私達の心の覆いを取り除いてくださり、私達に自由を与えてくださるのだと言っています。

みなさん、聖霊様はですね。神様のことがわからなくなっている私達の心の覆いを取り去ってくださるのです。そして、自由に神様の栄光をめいっぱい受け取ることができるようにしてくださるのです。

これが聖霊様の働きです。

ですから、もしみなさんの中で、最近、【主】による感動がないな。救われた喜びが感じられないな。何よりも栄光ある神様を喜んで賛美できないな。と感じている方がいるのならば、聖霊様のほうではなくって、別のほうに心を向けているのではないのでしょうか。

人を批判する思いとか、この世の思い煩いとか、【主】以外のほうに心を向けていて、心に覆いがかかっている状態なのではないのでしょうか。

【主】なる御霊は、そんなみなさんの心の覆いを取り去ってくださり、自由に神様からの栄光をめいっぱいうけとって、【主】に仕える喜びでみちあふれさせてく

ださいます。みなさん、聖霊様の方に目を向けていきましょう。聖霊の導きに心を向けていきましょう。そうすれば【主】にある栄光が永遠とわきでるようになるのです。

そして、この聖霊様に立ち返ることの恵みは、それだけでとどまりません。18節を読んでみましょう。

3:18 私たちはみな、覆いを取り除かれた顔に、鏡のように主の栄光を映しつつ、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられていきます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。

みなさん、鏡は光を反射しますよね。光を反射できるということは、より多くの範囲に光を届けることができるということです。普通ならば障害に遮られて光が届かないようなところにも、鏡を使えば光を届けることができます。

聖霊様が与えられた私達はまさにそうゆうことができる存在なのです。憎しみで心が固くなっている、怒りで心が固くなっている。罪によって神様の光が届かないようになっている。そうゆう人の心に、私達が聖霊に従って愛を実行していくならば、神様の光を届けることができます。それが、聖霊が与えられたということです。

でも、聖霊さまの素晴らしさはこれだけではありません。みなさん、鏡は光を多くの範囲に届けることができると言いましたが、その光を届ける鏡が曇って汚れていたらどうなるでしょうか。届けるべき光は拡散してしまっ、上手に光を反射できなくなります。

聖霊様を受け取っているけども、罪を犯してしまう私達の状態というのは、実はまさにそのような状態です。神様の素晴らしい栄光の光を受け取っているけども、私達が曇っているから、上手に周りの人に神様の栄光が届かない。ということがよくあります。

でも、私達に与えられた聖霊様は、そんな曇った鏡である私達を少しずつきよめてくださって、今の栄光からより素晴らしい栄光を表すものへと少しずつかえてくださるのです。そして、その変化はどこまでいくかということ、神様の栄光そのものである【主】イエスキリストと同じ姿にまでかえられるのだと、聖書は約束してくださっています。

これは私達の力によってなされることではありません。ペンテコステのときに与えられた御霊なる聖霊が、私達を内側から変えてくださるからできることなのです。

みなさん、だから、私達はこの聖霊が与えられたペンテコステをお祝いするので
す。

まとめ)

まとめます。あのペンテコステのときに教会に与えられた聖霊は、私達に新しい
契約であるキリストの救いを人々に伝えることができる資格を与えてくださいまし
た。

この資格と務めは、嫌なものではなくってモーセよりももっと素晴らしい栄光を
私達に与えてくださるものです。なぜならば、御霊による栄光というのは、私達を
愛なる御霊に仕えさえ、人々に義を与えるものとさせ、永遠に神様の栄光を受け取
れるようにさせてくださるからです。

御霊により頼むときに、私達は神様の栄光を自由に取り出すことができます。

そして、罪という暗闇の中で苦しんでいる人のところに神様の栄光を届けること
ができるようにして下さり、私達自身が汚れて曇っていたとしても、聖霊さまは
私達を栄光から栄光へときよめて下さり、私達の【主】であるイエスキリストと
同じ姿に変えてくださるのです。

だから、私達は御霊に頼り、御霊に従い、御霊によって【主】の栄光をあらわし
ていくのです。ペンテコステはこの恵みが与えられた日です。

ペンテコステを覚えるこの日、聖霊によって与えられた希望を確信しながら、大
胆に福音を伝える者になっていきましょう。